

仙 台 教 区 報

カトリック仙台司教区本部事務局
〒980
仙台市青葉区本町1丁目2番12号
☎ 022(222) 7371
FAX 022(222) 7378
編集・発行 板垣 勲

生涯養成の新たな歩み 司牧評議会承認される



司教区センターで9月23日に第37回司牧評議会定例会議が開かれた。今回の司牧評議会は司牧評議会規則が一部改正されてはじめての会議であった。

各県・各会からの代表19名が出席した会議は、生涯養成委員会が提出した「生涯養成委員会のこれからの動きを考える」を主に審議した。

議案説明では、同委員会が全小教区を対象に、生涯養成に関するアンケートを実施して回答をまとめたことが話された。アンケートは小教区での研修会の開催情況、生涯養成の今後についての小教区の考えを聞くものであった。

回答によると、小教区で「生涯養成」について理解している内容にばらつきがあることが指摘できる。ミサ後の聖書講話や日常の聖書勉強会を研修と捉える小教区と、そうは考えていない小教区があることはそ

の一例である。これは生涯養成についての教区からの説明不足などにも原因があると考えられる。

生涯養成委員会の提案

つぎに、委員会が聖書を学ぶためのテキスト発行後、ほとんど活動していない現状を打開するために司牧評の了解を得ながら当面の課題として「人的な養成」と「養成マニュアルの作成」に向けて動き出すとの提案が説明された。

これは回答にある、信仰教育と奉仕者養成にどうしても取り組んでおかなければならないとする小教区からの多数意見を受け止めたものである。

現在の教会は信徒の高齢化と若者の教会離れによって、教会の将来に対する危機感が高まってきている。提案は教会の現実を踏まえて、その状況を克服することを目指す

すものである。

委員会の今後の動き

審議の結果、生涯養成委員会の提案は①生涯養成に関わるすべてを全小教区で実現させることが難しいこと、②県・小教区が助け合えるような指針・プログラムを考えるようにとの評議員の意見、要望を受け入れて、以下のことが了承された。

- (1) 生涯養成は教区が何でもするのではないこと、司祭の理解が必要であることを前提に、生涯養成委員会が各種の研修会を企画、運営する。当面の課題として信徒会長との集りを持つことを目指す。
 - (2) 委員会は制度より実質を重んじて担当司祭三名で運営する。
 - (3) プログラムの煮詰め、具体化は司牧評議会役員会と合同で進める。当初の目標は指針となるマニュアル(テキスト)の作成と使用の伝達研修会を開く。
 - (4) 委員会には必要に応じて、委員会、司牧評議会役員以外の人の協力を得る。
- ※アンケートの結果報告は小教区に配布されている。

○報告

定例会議で「教会施設整備共済基金(仮称)」設立検討委員会の委員に、県代表四名と司教直任委員四名が承認された。

ゆるしと平和を求めるミサ

司教説教 (8月13日・司教区センター聖堂)



今年も八月十五日がめぐってきます。五十年前の八月十五日は日本の無条件降伏によって第二次世界大戦が終わった日です。その終戦については人それぞれ思いがあることでしょう。

思い返せば、一九四一年十二月八日、無原罪の聖マリアの祭日にアジア太平洋戦争が始まり、四年後の一九四五年八月十五日聖母の被昇天の祭日に戦争が終わり、日本は広島と長崎に原爆の大被害を受けて敗戦しましたが聖母マリアの御加護のもとに軍国主義の悪夢から救われたといってもよいでしょう。

今日の集いは「ゆるしと平和を願うミサ」の集いです。戦後五十年にあたって現在に生きるキリスト者としてのわたしたちは、一九一〇年の日本による韓国併合以来のもろもろの出来事に想いを致し歴史の事実からの教訓を学びとり、今後に向かって何をなすべきかを見極め、真(まこと)の平

和の実現に献身する決意を新たにしなければなりません。

(一) まず、心から「ゆるしを願う」ことが大切です。

(イ) 聖書に示されている「救いの歴史」を見ても、主キリストの十字架上の死と復活の出来事以来二千年の歴史の歩みを見ても、今更ながら、人間の罪深さに心が痛む思いです。人間の世の中には戦争や紛争、人と人との殺し合いが何と多かったことでしょう。

その中で「日本国民の犯した戦争犯罪」と呼ばれる事実があったことも認めざるを得ません。日清・日露の戦争以来、日本全国が軍国主義一色に染められてゆくに從って、アジア諸国に対する植民地支配や侵略が繰り返され、二千万以上のアジア諸国の人々が生命を奪われ、傷の痛みを身体にも心にも受け、今なお多くの人々が悩み苦しんでいるのが実情です。これまであまり知られていなかった歴史の真実が次々に明らかにされてきました。それを見るにつけ聞くにつけ、心が痛み、本当に申し訳ないことをしたと心から謝罪したいと思えます。日本国民の中にも、三百万以上の戦争被災者がいました。ここ仙台でも、七月十日の上空襲で多くの被災者がいました。身内を失い、心に深い痛手を負っている方々も

少なくありません。今でも原爆の被害に苦しんでいる方々も多いのです。神さまご自身がその方々を癒し、なぐさめ、力づけてくださるよう祈らずにはいられません。

人類の一員として、日本国民の一人として、特にキリスト者として、過去の歴史の中で犯された数多くの罪について、ゆるしを心から神さまに願いまししょう。同時に多大の苦しみを与えたアジア諸国の人々に、日本国民の犯した罪のゆるしを心から願いまししょう。

(ロ) ここで、「戦争責任」と言われていることについて考えてみましょう。

ヨハネによる福音書(五・十九、三十)に、御子キリストの権威について次のように記されています。「イエスは言われた。『はつきり言っておく。子は、父のなさることを見なければ、自分からは何事もできない。父は誰をも裁かず、裁きは一切子に任せておられる。』(父は)裁きを行なう権能を子にお与えになった。わたしはただ父から聞くままに裁く。わたしの裁きは正しい。』」

つまり、裁くのは御子キリストであるということなのです。出来事の真実のすべてを知っておられるのは父なる神のみなのです。後世に生きるわたしたち人間が、戦時下の指導者たちに、彼らに過ちがあったにしても、「石を投げる」資格はないでしょう。

神の裁きにゆだねるしかありません。しかし、戦争の惨禍についての被侵略者の側からの証言がますます増大してきた今日、事のありさまを、より客観的、全体的に見ることができるようになったことも否めません。

それだからこそ、当時の指導者たちが犯した過ちは過ちとして認め、わたしたちが主の前に告白し、ゆるしを願うのです。それはわたしどもが同じ過ちを繰り返さないためなのです。

「天皇の戦争責任」とも言われます。戦争遂行の政策や、軍事行動のすべてが「天皇の名において」行なわれたことは事実です。だが「天皇の名を借りて、悪用して」というのが実態ではなかったでしょうか。日本のカトリック司教団は、明治憲法による天皇制の誤りを指摘した上で、現在の日本国憲法による象徴天皇は、日本国民の大多数の心情を考慮して、容認されています。しかし、それが再び政治的に利用されることのないよう厳しく政府に要求しました。靖国神社の国家護持には絶対反対の意思表示をし、天皇家の儀式に国家財政からの支出をしないよう強く申し入れました。

今年の八月六日、「全国遺族会」に対して天皇、皇后の和歌が贈られたと報道されました。それが天皇、皇后の自発的な行為であるならば何も言うことはありません。しかし、このような事の積み重ねが政治的

に利用されて、以前のような天皇制の復活をめざすことになってはいけません。

(八)「カトリック教会の戦争責任」ということも言われています。戦時中に出された多くの司教団文書には、当時の時代情況があったにせよ、時代を超えるキリスト者の意識からすれば、確かにふさわしくない言辞が少なくないのも事実です。当時わたしはキリスト者でなかったので詳しいことはわからない。ただ、「今ならやらない」であろうことが「当時はやらざるを得なかった」ということもあったのではないかと、そのために司教たちも悩み苦しんだのではないかと思えます。いずれにせよ、事実として表われた司教団の過ちを正直に認め、心からの告白をし、ゆるしを願うことこそわたしたちのなすべきことです。

しかし他方、当時のキリスト者、司祭・宣教師・修道女・信徒の中には、特高警察や軍の憲兵によってひどく迫害され、非常に悩み苦しんだ方々も多くいたのです。彼らからすれば、「カトリック教会の戦争責任」と言われると強い反発を感じる、と言う人々がいるのも事実です。

ここで、次のような使徒ペトロの言葉が心に響いてきます。「キリストは、あなたがた(すべての人々)のために苦しみを受け、その足跡に続くようにと模範を残されました。この方は、罪を犯したことがな

く、その口には偽りがなかった。にも拘らず、罵られても罵り返さず、苦しめられても人をおどさず、正しくお裁きになる方(父なる神)にお任せになりました。そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました」(Iペトロ二・二一〜二四)。

キリストの十字架の死によって示された父なる神の慈しみ、不思議な神のみわざにすべてをゆだねるしかないように思われます。

※

(2) 次に、「平和を願う」ということです。

今なお世界の各地で、民族の対立や抗争が続いており、そのために多数の難民の流出が起っています。その一方で、至るところで「平和を！平和の実現を！」との叫びが聞かれます。にも拘らず、平和を求める各種の運動の中にも分裂があり、対立があります。人間というものは何と愚かなものでしょう。それは、同じ言葉「平和」を口にしながらも、その意味するところが人間的レベルでの理解に止まっただけで千差万別だからではないでしょうか。

「真の平和」は「キリストの平和」以外にはあり得ません。本物の平和は、キリストの十字架による平和を土台としてはじめて成り立ち得るのです。そして、「キリス

「トの平和」は「神の賜物」なのです。それは、わたしたちが真剣に祈り求めることによって与えられるものです。祈り求めることなしには真の平和は実現しないのです。その意味で、すべてのキリスト者は、平和のために真剣に祈らなければなりません。誰一人除外されることなく、すべてのキリスト者が老いも若きも、元気な者も病める者も、神から託された任務として実践すべきことなのです。平和のために祈ることができないという人はいはずです。

また、先程朗読された福音にもあったように、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」という主イエスのご命令を実行すること以外に、真の平和を実現する道はないのです。

その実践の道はいろいろあるでしょう。まず、自分自身の心の平和をしつかりと築くことが大切です。これがなくてどうして世界の平和と言えるでしょう。隣人との関わりの中でも平和を保つことがなくて、どうして世界の平和を口にすることができのでしょうか。また、社会の中にはびこる平和に反する人間の試みに、断固反対するということも必要でしょう。核兵器の完全な廃絶、兵器産業の縮小などについて、各国政府指導者たちへの強力な働きかけがどうしても必要です。先程の第一朗読の中でも述べられました。「神は多くの民の争いを裁き、はるか遠くまでも強い国々を戒められ

る。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」(ミカ四・三) こういう日はいつ来るのでしょうか。

※

平和の実現のために、一人ひとりが出来る限りの努力をする。その努力のすべてはキリスト者としての信仰を踏まえ、聖霊の導きに信頼し、神の働きの力にゆだねながら実践されることが不可欠です。キリストの平和、キリストの十字架による平和の実現は、神ご自身が完成してくださることを強く信じ、キリストとともに歩むとき、平和への希望の光が見えてきます。

真の平和の実現は、決してたやすいことではありませんが、失望、落胆することなく、勇気を奮い起こして頑張ってくださいましょう。

仙台司教 ライムンド佐藤 千敬

戦後五十年目の今年、仙台教区の小教区で、「ゆるしと平和を求めよ」ミサが捧げられました。カテドラルでの司教ミサは、諸外国の人たちを含む仙台市内外から多くの人が集まり、ともに祈りを捧げることが出来ました。



※本の受け取りに際して、送料は各自負担となります。

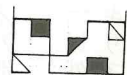
出版案内

●「キリストを待つ」 復刻版

著者 沢田和夫

発行 新世界・黙想会

定価 五〇〇円



三十四年前に発行されて再版が待たれてきた小さくて中身の濃い本です。仙台の熱心なファンの声に応じて出版されました。

申込・問合せ先

880 仙台市青葉区八幡三二五三

猪股暁子 TEL・FAX 022-331-4175

●「トランプスト百年・普理衛師物語」

中村正勝 著

定価 一三〇〇円

トランプスト修道院初代院長ジェラルド・ブリーエ師の逸話を中心に修道院のたどった歩みをまとめたもの。北海道キリスト教史の豊富な資料付き。自費出版。

申込・問合せ先

041 函館市陣川町三二五九

中村正勝

まもなく、教区司祭大会

教区の司祭大会は2年毎に行なわれてい
る。今年は研修会の性格を変えて、仙台教
区の将来に焦点を当てた「宣教司牧の共通
理解を目指す」話し合いをする。

11月27日から3日間の大会は司祭評議会
の問題提起によって始まり、分科会などで
司祭たちが意見を交換した後、大会宣言を
まとめることを目標にしている。このため
司祭評議会では4名の信徒に参加協力を求
め、5名の司祭とともに話題を提供しても
らうことにした。

話題を提供する信徒に与えられたテーマ
は、教区の実情を見ながら「教区を活性化
し、今後発展させるために必要なこと」で
ある。個人として自由に語ってもらう話題
が大会の成果に繋がるのが期待される。

☎ テレホン
・サービス

ベト口神父のやさしいお話を、
毎日3分間日替わりメニューで
24時間流しています。

埼 玉	0489-24-4332
川 崎	044-852-4485
千 葉	043-272-7958
静 岡	0543-36-1741
仙 台	022-378-9296
沖 縄	098-899-1755

祈りの園 事務所
問い合わせ 044-866-9097



世界食糧デーを
知っていますか

第1回仙台大会開催される

国際連合は一九八一年以来、毎年10月16
日を世界共通の「世界食糧デー」と制定し
た。その目標は世界の一人ひとりが協力し
あって、第三世界に広がる栄養失調、飢餓
極度の貧困を解決していこうとすること
である。

今、世界では飢えや栄養不足による病
気で、1分間に28人(21人は子ども)が死
んでいる。その一方で、日本など限られた国
では食べ過ぎ、栄養の取りすぎが問題にな
っている。この現実には地球家族である人類
が共に生きていくことを考えると、見過ご
すことはできないだろう。

日本では世界食糧デーが制定された年に
国連の呼びかけに応じて、「日本国際飢餓
対策機構」が非営利の民間援助団体(NG
O)として設立されている。

「世界の飢えた人々に食糧と愛を」を標
語とする同機構は、物心両面にわたる確実
で、効果的な飢餓対策への貢献を目指して
①緊急援助、②自立開発援助、③学校教育
援助の三部門による活動を世界各地で展開
している。活動の一環として、世界の食糧
問題を啓蒙するために日本では「世界食糧
デー大会」を後援、開催してきている。

仙台市では同機構の呼びかけと後援を受
けた市内キリスト教会、ミッションスクー
ルが協力しあって、10月6日に「第1回世
界食糧デー仙台大会」を開いた。会場には
二百人以上が集まり、同機構スタッフのバ
ングラデシュ現地報告と、神田英輔総主事
の世界的飢餓と私たちの生き方がどのよう
に関わり合っているかを訴える講演に耳を
傾けた。

会場でのアンケートには、多くの人から
世界食糧デーを知らなかったとの声や、こ
の活動に積極的に関わりたいとする若い人
の声を聞くことができた。当日の献金は世
界食糧デーの働きのために感謝のうちに捧
げられた。

今大会実行委員会の反省会では、「世界
食糧デー」の願いが、自分自身の生活を見
つめ直し、少しでも世界の人々と共に生き
る生き方を実践しようとする人が増やされ
ていくことにあることを再確認し、次の大
会に備えることを決めた。

・問合先 日本国際飢餓対策機構

〒114 大阪市八尾市北本町2-4-10

本部事務所

TEL 0725-9510123

FAX 0725-9419100

・献金、寄付金の送付先

郵便振替 00709-90000

日本国際飢餓対策機構



「可憐な刀口」叩煉成会 久々に開かれる

教区主催の召命錬成会がしばらくぶりで行なわれた。この錬成会は従来「一粒会」と呼ばれていた司祭召命の活動を、「仙台教区司祭召命活動」と名を改めてから初めて実施されたものである。

錬成会は教区に関わりのある四名の青年が参加して、「ドミニコの家」で9月8日から三日間の日程で行なわれた。祈りと分かち合いを中心にした錬成会は、司祭召命活動を担当する会津神父が指導し、夏休み中の教区神学生・小松助祭、和野助祭、数人の司祭の協力によって進められた。

現代に生きる司祭と題する講話は、参加者の召命理解を深め、それぞれに励ましを与えるものとなったようである。今回は小人数の参加者だったが、この中から召命の確信を得て来年度、神学校に入学したいと表明する青年が与えられた。司祭志願者が与えられたことは、司祭召命の減少に心を痛めている教区にとり大きな喜びである。

錬成会後、会津神父は今回、準備の関係で司祭の召命に焦点を絞った錬成会となったが、次回は「召命」の深い意味を考えて間口をもっと幅広くした召命錬成会を行いたい、次の錬成会への抱負を語った。



第一回東北地区宗教・倫理教育 ワークショップの報告

東北地区カトリック小・中・高連盟主催の宗教・倫理教育ワークショップが9月11日、12日に仙台市で開催された。このワークショップは新潟県を含む東北地区のカトリック学校にとり長年の懸案事項であり、研修会には23名が集まって熱心に研修を行った。

日本の教育界では、今の時代こそ「心の教育」が重要であると強く叫ばれ、カトリック学校がそれに応えることを期待されている。その点で、今回の企画はタイムリーであった。

研修は宗教科の4つの模擬授業を中心に進められた。南北問題に焦点を当てた授業は、自分の目で確かめながら学べるように工夫された説得力あるものであった。聖書に題材をとった授業は宗教科特有の難しさを感じさせるものがあった。しかし、工夫によって聖書の授業も楽しく学べるものであることを教えられる実例に出会った参加者はおおいに励まされていた。

分ちあいで、授業者（先生）が伝えようとしたことが生徒にどのように伝わったかを振り返り、生徒の立場を知る大切さが話された。宗教倫理を教える教師に連帯感と心強さを与えた研修会は、感謝されて終わった。



○カトリック大会、テレビで放映

三陸大津波百周年国際追悼式典とした大会が10月8日に釜石市で開催された。釜石市などの後援を受けた大会は盛大に行なわれ、テレビでも取り上げられた。

○元「従軍慰安婦」の証言を聞く会

元寺小路教会で元「従軍慰安婦」の生の声を聞く会が10月29日に開かれた。証言者は宮城県在住の宋神道（まこと）さん他1名。証言者講演テープ・関連資料配布の問合せは同教会気付で「カトリック戦後50年問題を考える会・みやぎ」まで。

○戦争と原爆展

仙台YWCAで11月23日から26日までパネル展が開催される。この催しは戦後50年を再考し、原爆の実相を世界に伝えて核兵器の廃絶と恒久平和の実現を訴えるものである。入場料大人二百円、中高生百円。

○学術講演会

仙台白百合短期大学カトリック研究所では第1回学術講演会を11月18日に開催する。演題は「イエスの受難と神の救いの意志」講演者は都立大学の伊吹雄教授。聴講料無料。定員60名。